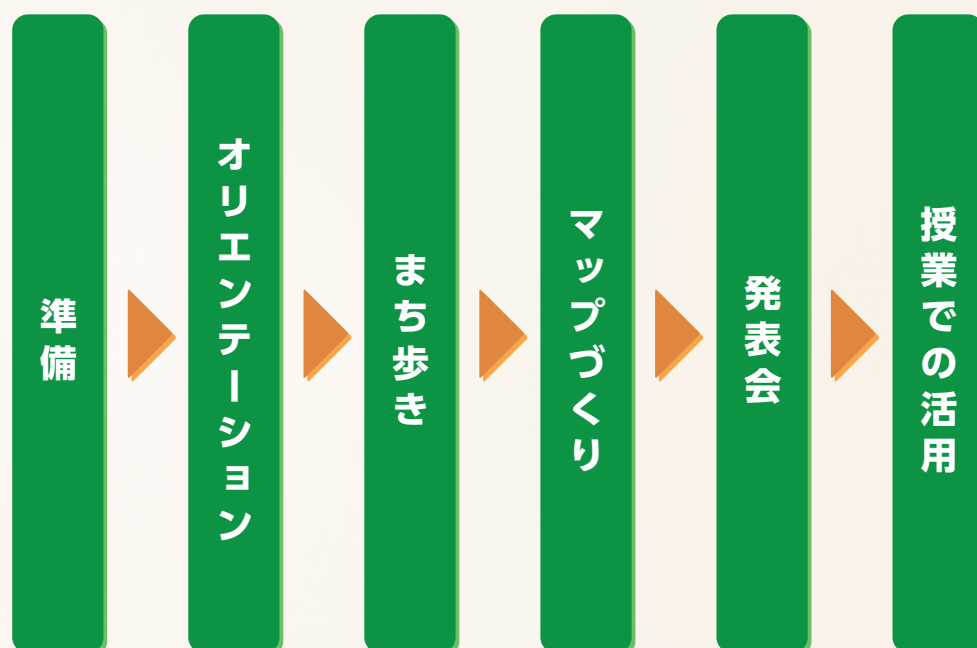




3. 授業の実践



1 | 準備

1 地図の入手と対象エリアの決定

- 「まち歩き」する場所の位置や様子がわかるよう、学校区の地図を用意する（市教委で学校区毎の住宅地図を入手することが可能です）。
- まち歩き、マップづくりの対象とする範囲、エリア割りを決定します。
- 必ずしも全学区を一度に対象とする必要はありません。

2 グループの決定

- 対象エリアの数に応じて、対象となる児童・生徒のグループ分けを行います（1 グループにつき4～5人程度）。
- 配慮が必要な子どもは事前にチェックし、スクールカウンセラーや保護者等と相談し、負担にならないエリアを担当させます。

3 備品を揃える

- まち歩き、マップづくりに必要な備品を揃えましょう。
（例）カメラ、模造紙、分類シール、ペン、情報、分類カード用のカラー用紙、等

4 保護者や地域への協力依頼

- まち歩きの見守り、インタビューの依頼など、保護者や地域の方に「復興・防災マップづくり」を行うことを予めお知らせし、協力を依頼します。

WS - ①

【保護者への依頼】

〇〇 〇〇様

「復興・防災マップづくり」におけるボランティアのお願い

平素より大変お世話になっております。

さて、本校〇年生では、災害復興・防災教育の一環として、学区の「復興・防災マップづくり」の活動に取り組んでいます。学習のねらいは、「地域の〇〇地区の復興がどの程度進んでいるかを調べて、復興マップをつくること」と、マップづくりを通して「今後の〇〇の未来像を考えること」です。

つきましては、学習の中でまち歩きを計画しております。児童が安全に学習できるように保護者の方々に見守りのボランティアのご協力を願います。ご案内いたします。学習ボランティアにご協力可能な方は、おがきさんを通じて学校側までお知らせ下さい。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

記

1. 日時： 〇〇〇〇年〇月〇日（曜日）（〇時～〇時～〇時まで）
2. 活動場所：〇〇小学校内
3. その他：児童は、グループごとにエリア内を歩きます。学校に付き添い、見守りは終了となります。

本件に関するお問い合わせは、以下までお願いいたします。

〇〇市立〇〇学校
教頭 〇〇 〇〇 学年主任 〇〇 〇〇
電話

以上

WS - ②

【地域への依頼】

〇〇 〇〇様

「復興・防災マップづくり」におけるインタビューの依頼について

平素より大変お世話になっております。

さて、本校〇年生では、災害復興・防災教育の一環として、学区の「復興・防災マップづくり」の活動に取り組んでいます。実際に子どもたちが学区内や施設を「まち歩き」することによって、地域への復興や復興への意識、防災意識を高めるようにしたいと考えております。

つきましては、まち歩き活動に際して、下記の要領で子どもたちが施設を訪ねて、被災者や復興の経験やその他の復興の取り組みについて簡単なインタビューをさせていただきたいと考えております。お考えやご疑問をお話けると大変ありがたい存じます。

どうぞご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 日時： 〇〇〇〇年〇月〇日（曜日）
（〇時～〇時～〇時の間に訪問します。所要 10-15 分程度です。）
2. 活動場所：〇〇小学校の各地区
3. 要領内容：

本件に関するお問い合わせは、以下までお願いいたします。

〇〇市立〇〇学校
教頭 〇〇 〇〇 学年主任 〇〇 〇〇
電話

以上

2 | 学習の流れ

「復興・防災マップづくり」の一例として年間の学習の流れと、学習に用いるワークシートとの関係を示します。

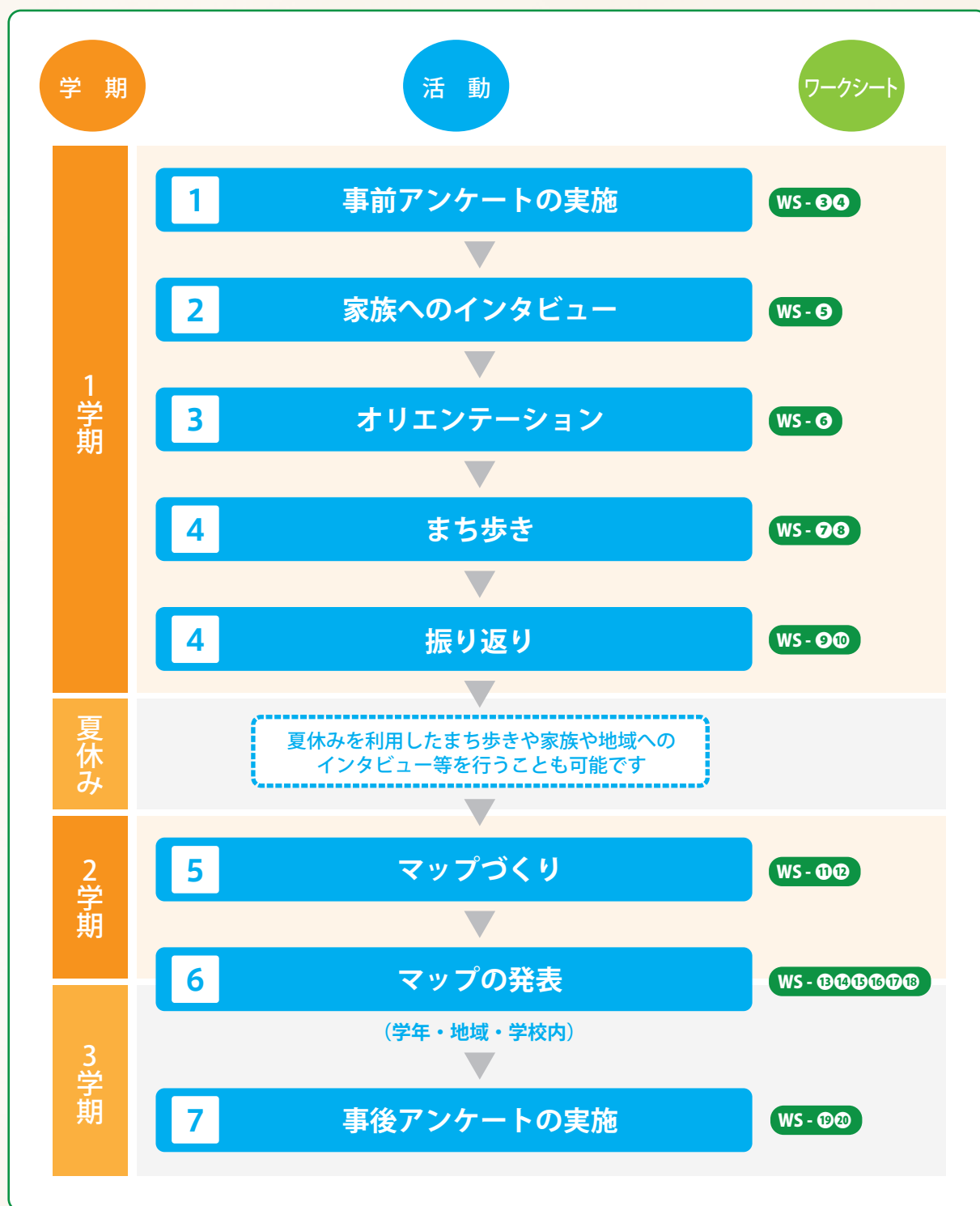


図1 学習の流れとワークシートの活用

WS- は、別冊③「ワークシート集」に対応しています

3 オリエンテーション

オリエンテーションでは、以下の項目を確認し、まち歩きの前準備をします。

これからの活動に関連する学習や意欲づけのための授業を行います

- 目的をはっきり知らせ、これからの学習に対する見通しをもたせます。
- 地域の方や他学年に発表する予定があれば、そのことを前もって伝え意欲につなげます。
- 事前学習として、地域の方をお招きしてお話をうかがうこともできます。

(例：湊小)

- ・石巻市の津波警報時のルールを学ばせる
- ・避難場所の様子を撮影したビデオを見せる

(例：住吉中)

- ・ゲストレクチャーから「住吉地区の地形と土地利用の変遷と災害について」学ぶ

(例：中里小)

- ・防災士、阿部さんから話を伺う
「災害の際にどんなものが役に立つか」
「どんな情報が必要か」

(例：鹿又小)

- ・行政委員、自宅防災組織リーダーにインタビュー

※詳細は別冊①「実践事例集」を参照ください。

地図を学習します

- 学区の地図の説明します。
 - 自分たちが「まち歩き」する場所の位置や様子がわかるよう学区全体の地図を用意します。
 - 対象学年に応じて地図の学習をします。
 - 事前に学校で、国土地理院の地形図等で学区全体の地形、石巻市のハザードマップ等で学区の情報を把握しましょう。(P.29～P.33 「4. 地域の地形、土地利用の変遷を理解するための地図とその活用例」を参照ください。)
- 自分の担当のエリアを地図上で確認させます。
 - 「まち歩き」の対象を学区全体にするか、特定エリアをにするかは、学校や地域の実態に応じて決定します。

まち歩きの計画を立てます

- 発見ポイントの分類を確認します。
 - 目標に応じて各校で設定します。
「まち歩き」の発見ポイントの分類の意味を知らせ、何を見てくるのか、どういうところに気をつければよいのか、子どもたちがきちんとわかるようにする。そのことが「まち歩き」の目標を明確に理解することにつながります。
- インタビューを準備します。
 - インタビュー先には、学校から事前に趣旨を伝え、依頼します。
 - 何を知るためにインタビューするのか、子どもたちから説明できるようにしておきます。
 - インタビュー先への質問を考えさせ、インタビューシートに簡潔に書き込ませます。
 - インタビューは子どもたちが行います。予めインタビューの順番や質問を決めさせます。

■まち歩きに持参する物を確認します。

- 生活科バッグまたはバインダー、まち歩き用ワークシート、インタビュー用ワークシート、地図、カメラ、筆記用具、等

※小学校で実施する場合は、保護者やボランティアに同校してもらえよう予め依頼しましょう。

■グループ毎に「まち歩き」の計画を立てます。

WS-6

- 意欲的に活動に参加できるように一人一人に役割を分担し、目的意識を共有できるよう配慮します。
- 交通安全や写真のとり方、挨拶等の注意事項を確認します。

まち歩き計画をたてよう！ 担当エリア

小学校 期 月 日 日 月 日

役割を決めよう！

役割	役割の説明	担当する人の名前
リーダー	動きまわめる。インタビューの時、質問と回答のあいさつをする。	
記録係	まち歩きをしながら、撮影したことをメモする。	
カメラ係	発見した場所や建物、人の写真を撮る。	
地図係	地図を見ながら、事前に決めた経路通りに進むように道を誘導する。地図の中の発見した場所や建物の位置に、番号を正確に記録する。	
発見係	記録する場所や建物を決める。 (4人の組は全員)	

まち歩きで注意すること

- 交通安全を守り、交通事故などにあわないように気を付けましょう。
- 写真は1ヶ所につき、1枚だけでなくたくさん撮影しましょう。同じものや場所を撮影する場合は、まわりの空気のようすがわかるように食ったり、ズームアップして撮ったりして下さい。1枚のズームアップした画像だけでは、見る人に伝わりません。注意しましょう。

見る人にとってわかりやすい写真を撮りましょう

＜全体の写真＞

○あいさつ、お礼のことばを必ず忘れずに言いましょう。

○他のお友達さんの邪魔にならないようにしましょう。

＜発見したものの写真＞

他にはどんなことに注意したらいいかな？

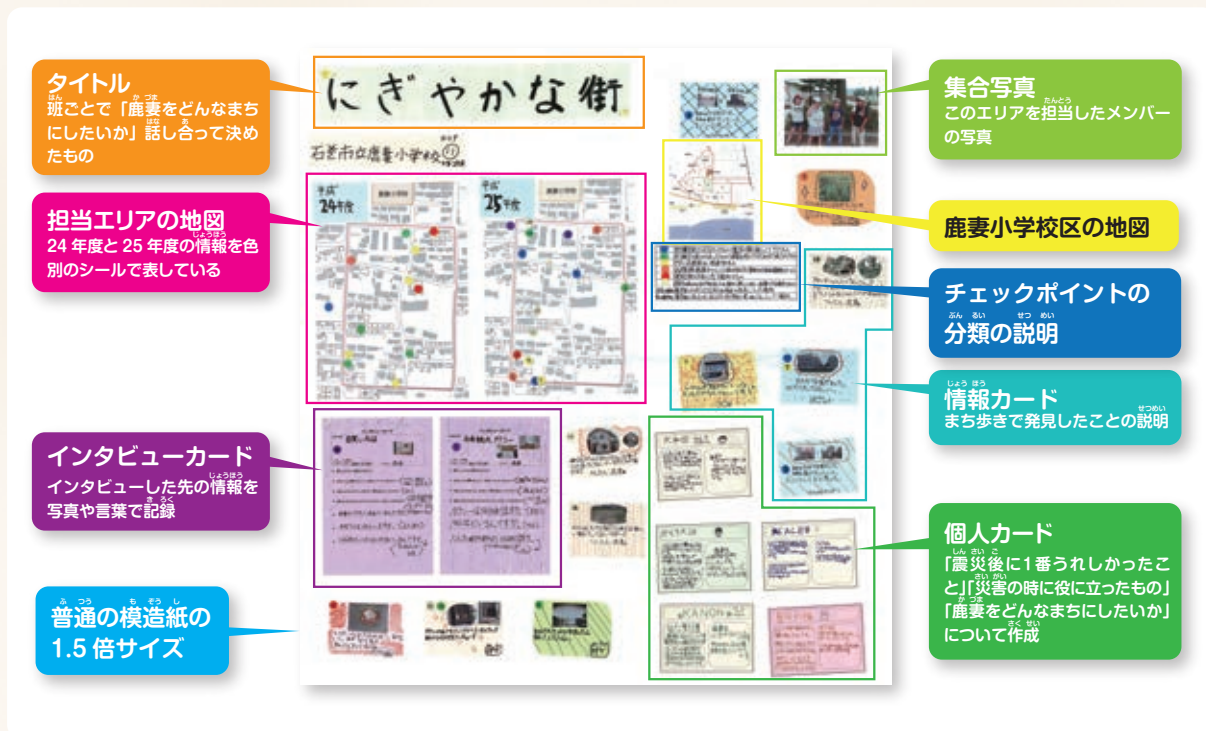
■まち歩きのルートやインタビュー場所についてグループで話し合い、事前に設定し、地図上で確認します。



5 マップづくり

■マップの構成

「マップ」に収められる情報は、地図に限定されません。まち歩きで収集した情報を整理・選択し、模造紙に担当したエリアの地図とともに「マップ」としてまとめていきます。



【平成 25 年度鹿妻復興マップの例】

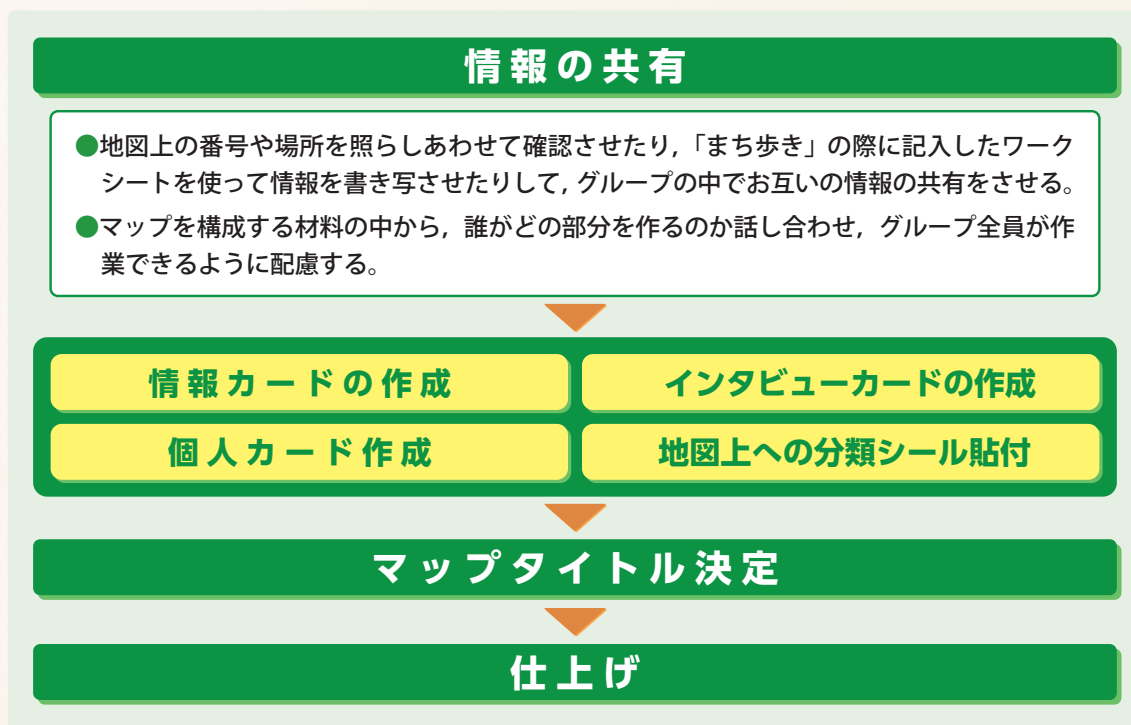
- タイトル 地域をどんなまちにしたいか話し合って決めたもの
- 集合写真 このエリアを担当したメンバーの写真
- 小学校区の地図 担当エリアを別の色でわかるように表示
- 担当エリアの地図 発見ポイントの情報を色別に表示
- 発見ポイント分類の説明
- 情報カード まち歩きで発見したことの説明
- インタビューカード インタビュー先の情報や写真
- 個人カード 個々人が家族インタビューをもとに作成

準備するもの（例）

- 模造紙
 - 学区全体図(教育委員会から提供)
 - エリア地図
 - 筆記用具(色鉛筆, フェルトペン, マーカー, はさみ, のり, 両面テープ^{※1})
 - 「まち歩き」でとった写真
 - まち歩きシート
 - インタビューシート
 - 色別シール(発見ポイントの分類を色わけするため)
 - マップに使用するカード(情報カード, 個人カード, タイトルカード)^{※2}
- ※1 両面テープは、模造紙に写真を貼るため。仮どめのテープがあるとさらに便利
 ※2 まち歩きで集めた情報をカード化して個別にまとめることにより、各人で作成ができ作業の効率化が図られる

■マップづくりの流れ

発見したことや気づいたことを教え合い、自分と友だちの考えと比べながら整理することで、多様な見方や考え方を育成することにつながります。(協同的な話し合い)



情報カードの作成

- カードには、自分の名前を書いて、責任をもってカードを作成させます。
- 調べたことをカードに書き出す。その際、1枚のカードに1地点の情報を記述することを伝えます。
- 必要な写真を選んでカードに貼らせます。
- 色別分類シールをはり番号をつけさせます。



インタビューカードの作成

- 質問ごとに1枚ずつの質問カードに記入させ、それをインタビュー先ごとに1枚のインタビューカードに貼付けることで作業の効率化をはかります。
- 質問毎のカードに自分の名前を書いて、責任をもってカードを作成させることも一案。
- インタビュー毎に感想をまとめます。
- 各人の作成したカードをひとつのインタビューカードに貼付けて完成させます。

インタビューカード

氏名

インタビューした人の名前

写真

質問1: この1年間で変化したことはありましたか?

回答

質問2: ○○(地域名)をより良くするために、ぼくたち、わたしたちにしてほしいことはありますか?

回答

質問3: 震災でどのくらい被害がありましたか?

回答

質問4: お店はいつ再開しましたか?

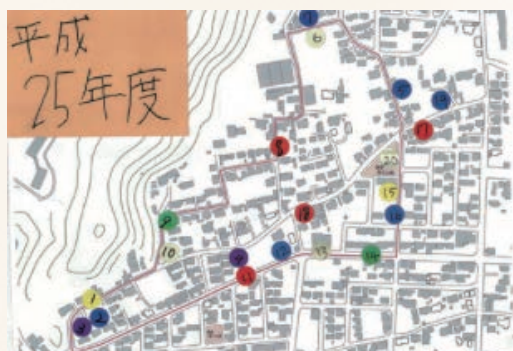
回答

感想

WS-10

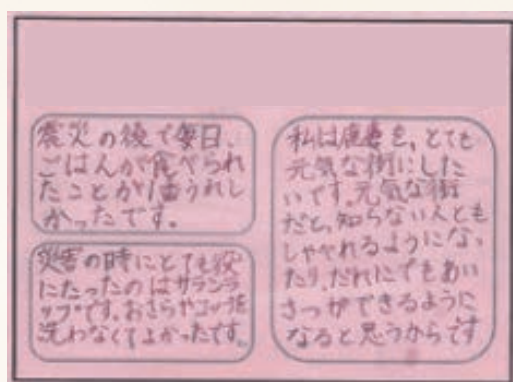
地図上への分類シール貼付

- 自分たちが歩いた経路と調べた場所を順に確認しながら、グループのエリア地図に分類別の色シールを正確にはらせませす。
- 地図上にはったシールの上に番号をふらせませす。
- ひとつの分類に決められない場合は、シールを複数枚はらせませす。



個人カード作成

- 東日本大震災当時のことについての家族へのインタビューの内容や自分自身の思いや感想を書かせませす。
- 「まち歩き」をして感じたことや発見したこと、これからの地域に対する自分の思いや願いを書かせませす。



マップタイトル決定

- タイトルには、子どもたちの「これからのまちを考え、どんなまちになってほしいか」を表します。
- 単元の目標に関わる重要な部分であり、十分に考える時間をとります。
- まち歩きで調べたことや地域の人々とのかかわりを通して、気づいたこと、うれしかったことを思い出させて、自分たちにできること考えさせませす。
- 自分のまちをどのようなまちにしたいかグループで話し合わせませす。
- グループで決めたタイトルをタイトルカードに記入します。

WS-12

復興マップのタイトルを考えよう！

1. 2. 3. 4.

復興マップのタイトルは、みんなが〇〇をどんなまちにしたいの、考えて決めませす。まずは、一人ひとりでまち歩きのことを思い出させませす。

1. 2. 3. 4. 復興マップのタイトルは、みんなが〇〇をどんなまちにしたいの、考えて決めませす。まずは、一人ひとりでまち歩きのことを思い出させませす。

2. 復興マップのタイトルは、みんなが〇〇をどんなまちにしたいの、考えて決めませす。まずは、一人ひとりでまち歩きのことを思い出させませす。

3. 復興マップのタイトルは、みんなが〇〇をどんなまちにしたいの、考えて決めませす。まずは、一人ひとりでまち歩きのことを思い出させませす。

4. 復興マップのタイトルは、みんなが〇〇をどんなまちにしたいの、考えて決めませす。まずは、一人ひとりでまち歩きのことを思い出させませす。

(例)

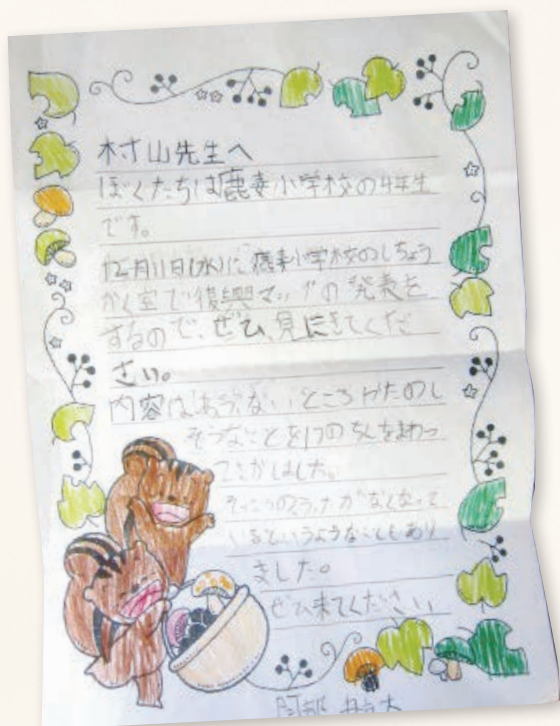
「自然豊かな緑の町」「明るい 楽しい きれいな町」「しあわせでにぎやかな楽しい〇〇」「安全でみんながくらしやすい笑顔いっぱい町」

仕上げ

- 作成した全てのカード(情報カード、個人カード、タイトルカード)とエリア地図、分類表等を台紙(模造紙)の上に置いて、配置を確認してから貼らせませす。

6 マップの発表

- 「まち歩き」でお世話になった人や発表会に招待したい人を考え、感謝の気持ちをこめて手紙（招待状）を書かせます学習活動における情報を整理し発表することで、自分の考えが明らかになったり、課題が一層鮮明になったり、新たな課題が生まれたりしてきます。
- 発表する相手に応じて伝え方を考え、分かりやすく伝えることができるようにします。



発表準備用ワークシート

WS - ⑬

復興マップについて発表してみよう！	
名前	学年
① 4月、5月、6月（夏）で何をしてきましたか？ ② ①の答え（うらな）は、それ以外で考えたことを書きましょう。	
③ 復興マップについて（どこまで）	
④ 復興マップについて（どこまで）	
⑤ 復興マップについて（どこまで）	
⑥ 復興マップについて（どこまで）	
⑦ 復興マップについて（どこまで）	
⑧ 復興マップについて（どこまで）	
⑨ 復興マップについて（どこまで）	
⑩ 復興マップについて（どこまで）	

発表会参加用ワークシート

WS - ⑭

WS - ⑮

WS - ⑯

復興マップ学年発表会	
名前	学年
① 復興マップについて（どこまで）	
② 復興マップについて（どこまで）	
③ 復興マップについて（どこまで）	
④ 復興マップについて（どこまで）	
⑤ 復興マップについて（どこまで）	
⑥ 復興マップについて（どこまで）	
⑦ 復興マップについて（どこまで）	
⑧ 復興マップについて（どこまで）	
⑨ 復興マップについて（どこまで）	
⑩ 復興マップについて（どこまで）	

保護者・地域へのアンケート

WS - ⑰

WS - ⑱

復興マップに参加された地域の皆様へ	
お世話になっております。復興マップの発表会にご参加いただき、ありがとうございます。また、まち歩きの際にもご協力をお願いいたします。	
① 復興マップについて（どこまで）	
② 復興マップについて（どこまで）	
③ 復興マップについて（どこまで）	
④ 復興マップについて（どこまで）	
⑤ 復興マップについて（どこまで）	
⑥ 復興マップについて（どこまで）	
⑦ 復興マップについて（どこまで）	
⑧ 復興マップについて（どこまで）	
⑨ 復興マップについて（どこまで）	
⑩ 復興マップについて（どこまで）	

7 事後アンケートの実施

全ての学習が終了した後にアンケートを実施します。学習前後の子どもたちの知識や関心、態度の変容を把握するために、以下の質問で構成されます。

復興マップづくり用

WS - 19

事後アンケート（復興マップ）

〇〇市立 〇〇 小学校 〇〇 年 〇〇 月 〇〇 日

1. 復興マップづくりをやってみて、思ったことや気づきを書いてください。
次の①～⑤の中で、あなたが最も大切なことを書いてください。①～⑤の中から1つ選び、○をしてください。
① 〇〇（地域）のことがよくわかった。
② 〇〇の復興のようすがよくわかった。
③ もっと〇〇の復興に「自分」の力を貸した。
④ 〇〇で起きていることをよく知ることができた。
⑤ その他（①～④と比べて思いついたこと、下の〇に書いたことを書いてください）

2. 復興マップづくりをやってみて、どのくらい復興に関心を持ちましたか？
100点満点で、点をつけてみましょう。

3. ②の復興のようすの理由を教えてください。

4. あなたは〇〇（地域）のことが好きですか？①～⑤の中から1つ選び、○をしてください。
① とても好き ② 好き ③ どちらでもない ④ あまり好きではない ⑤ 好きではない ⑥ わからない

5. 4の質問で、②（〇〇のことが好き）と答えたら、そのように思えた理由を書いてください。
① 復興のようすのいいところから
② 復興のようすのいいところから
③ 復興のようすのいいところから
④ 復興のようすのいいところから
⑤ その他（ ）

4の質問で「②（〇〇のことが好き）」と答えたら、そのように思えた理由を書いてください。

復興・防災マップづくり用

WS - 20

事後アンケート 復興・防災マップづくり

〇〇市立 〇〇 小学校 〇〇 年 〇〇 月 〇〇 日

質問1 あなたは〇〇（地域）のことが好きですか？ 以下から1つ選び、○をしてください。
① とても好き ② 好き ③ あまり好きではない ④ 好きではない ⑤ わからない

質問1で①とても好き、②好きを選んだ人に限ります。その理由を教えてください。

質問2 あなたは〇〇（地域）のことが好きですか？ 以下から1つ選び、○をしてください。
① 小学校で ② 中学校で ③ 高校で ④ 大学で ⑤ その他（ ）

質問3 あなたの復興・防災マップづくりの理由を教えてください。以下から1つ選び、○をしてください。
① よく知る ② 知る ③ 知るため ④ 知るため ⑤ わからない

質問4 あなたの復興・防災マップづくりの理由を教えてください。以下から1つ選び、○をしてください。
① よく知る ② 知る ③ 知るため ④ 知るため ⑤ わからない

3 | マップの授業での活用

子どもたちが作成した「マップ」には学区の復興の記録や、防災に関する記録が蓄積されています。そして、何よりも単元全体の自分たちの学習活動の足跡がわかる資料となっています。自分たちが作成した「マップ」を教材として活用することで、自分たちの活動に対する成就感をもち自分への自信、今後の活動への意欲につなげることができると考えます。

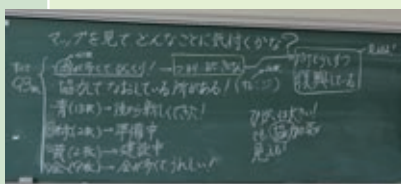
また、単元全体の学習活動の前後における自己の変容に気づくようにさせることが重要です。さらに、地域の復興や防災を自分たちの課題としてより身近に捉え、考えるきっかけとしていきたいところです。

(例)

- ・10年後のまち湊…マップを活用して10年後の災害に強い町づくりについて考え、まとめ、復興の担い手としての意識を高める
- ・鹿妻復興マップ…完成した「復興マップづくり活動のまとめ」を活用し、地域について愛着を深め、自分の成長に気づき、地域のために自分ができることを考える

(例) H27 渡波小学校 5 年生復興マップづくり

段階	主な学習活動	教師の指導・支援	【観点】 評価規準（評価方法）
	1. 各グループのマップをつなぎあわせる	● 渡波小学校区のマップの全体像を見つめることで、現在の復興の様子を確認できるようにする	
	2. マップをみて、気づいたことをワークシートに書く	マップを見て、どんなことに気づいたかな ● 何色のシールが目立つのか、復興は進んでいるのか等について、自由に記述できるようにする。また、時間を十分に確保することでより多くの視点に気づかせたい	地域の復興の様子を確認し、地域の良さに気づくことができる【主体的、創造的に問題を解決する態度】 ● マップの全体像からどの色が目立つか助言する ● 未来像を書く際には、今後のまちがどのようなようになってほしいか考えさせる
	3. ワークシートに書いた内容を発表したり、友達と気づいたことを伝えたりする	● 発表者の気づきを認め合ったり賞賛しあったりできるよう助言する	
	4. 今後の渡波地区の未来像についてワークシートに書く	● 出来る限り多くの児童に発表させたい。挙手しての発表だけでなく、マップに近づいたり、近くの友達と気づきを交流させたりする時間を確保する。そこから、次の学習活動へつなげるようにする 私たちに何かできないかな ● 記述の際に、大人と協力して自分たちにできそうなことや自分自身にできそうなことの視点を与えることで記述しやすいようにする	
	5. 次時の学習内容を確認する	● 各班が調査した内容の発表に向けての準備をすることを告げる	



4 | 情報共有プラットフォームの構築と活用

■まち歩きとマップづくりを災害復興・防災教育の学習として継続して行うことが大切です。

- 継続することにより、子どもたち自身がまちの復興・防災情報の変化を体験・体感することができます。

■子どもたちの手により記録された情報は、紙媒体だけでなくデジタルデータとして記録・保管していくことも可能です。

- デジタル化された情報は、検索が容易になります。
- 年月が経った後に、新しい世代の子どもたちが先輩の作った情報をもとに地域の復興の状況について学ぶことができます。

情報共有プラットホーム

【参考】鹿妻小学校「復興マップ」のデジタル化（例）

平成 24, 25, 26 年度の復興マップの情報をもとに、鹿妻小学校の災害復興情報共有プラットフォームを構築しました。

鹿妻復興マップづくり 情報共有プラットフォームのトップページ。

紙媒体のマップの3年分の情報をデジタル化することにより、蓄積されたデータの検索を行いやすくなります↓



■例えば、情報共有プラットフォームをオリエンテーションで活用した場合の指導案を以下に示します。

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

単元名 「まち歩きと復興マップづくり」

本時の指導 (2/17)

ねらい 「鹿妻復興マップ」情報共有プラットフォームを活用して、これまでの地域の復興の状況について知り、自分たちの地域の様子に関心をもち進んで調べようとする。

●指導過程

学習活動	教師の指導・支援	評価
1. 本時の学習内容を知る。 「鹿妻復興マップ」プラットフォームを活用して自分たちのマップづくりを考えてみよう 「鹿妻復興マップ」プラットフォームを活用して自分たちのマップづくりを考えてみよう ●これまでの「鹿妻復興マップ」を検索する	●学習課題をつかませる ●H24～26年の3年間の「鹿妻復興マップ」調べ、「復興マップ」とはどんなものか関心をもたせる トップページ画面から「復興マップ」タブを押す	
2. グループごとに実際にパソコンを使用し調べる ●自分たちがまち歩きする各エリアの情報カードを見る トップページ画面「キーワードで調べる」の「エリア」で①～⑫のエリアで検索。 ●各エリアのインタビューカードを見る 同「キーワードで調べる」の「エリア」と「分類→インタビュー」で検索。 ●定点の移り変わりを調べる 同「キーワードで調べる」の「エリア」と「分類→定点のうつりかわり」で検索。	●自分たちの身近な場所や知っているお店などのカードを検索させ、興味をもたせる ●感想、地域の方々からのメッセージをみて、これまで気付かなかった良い所をたくさん見つけさせる ●これから自分たちがインタビューする参考にさせる ●これまでの地域の復興の状況をカードの内容と写真から、具体的に捉えさせる ●定点の様子が今はどうなっているか興味をもたせ、今後の「まち歩き」に関心をもたせる	●これまでの地域の復興の状況について興味をもって調べている
3. 自分たちの「マップづくり」を考える ●プラットフォームを見て、自分たちの「まち歩き」で調べたい場所を考える	①定点の今年の変化 ②危険なままだった場所がどうなっているか ③さら地だった場所の変化 ④新たに調べたい場所、など自分たちで調べたい場所を自由に考えさせる ●これから自分たちが作成する「マップづくり」を考えるきっかけとさせる	同「キーワードで調べる」の「エリア」と「分類→発見ポイントの分類ア～キ」で検索。

学習活動2で、「作成年度（H24, 25, 26年度）」×「エリア①」で検索した結果, 46枚の情報カードがあることがわかる。写真は、見つかった情報カードの例。



学習活動2で、「作成年度（H25, 26年度）」×「分類（インタビュー）」で検索した結果, 61枚のインタビューカードがあることがわかる。写真は、見つかったカードの例。



学習活動2で、「作成年度（H26）」×「エリア⑥」×「分類（オ危険と思うもの）」で検索し、「地図を見る」にチェックを入れると、5箇所の情報が地図上に示される。位置情報をもとに、実際のまち歩きで現在の状態を確認することができる。



5 | 被災から 10 年後の「津波防災マップづくり」

東日本大震災から年月を経るにつれ、震災を体験していない、あるいは震災後に生まれた子どもたちが「復興・防災マップづくり」に取り組むようになりました。新たに震災の経験を学び、その教訓を受け継いでいくために、これまでに蓄積された学区の震災や復興の記録を活用した鹿妻小学校での授業実践を紹介いたします。

第 4 学年 総合的な学習の時間 学習指導案

単 元 名 被災から 10 年後の「津波防災マップづくり」

本時の指導 1・2/35 時間

ね ら い 震災の発生からこれまで継続的に取り組んできた「鹿妻復興マップ」や地域の地図（地形図・浸水図）などの資料を活用して東日本大震災を知り、これからの「マップづくり」について関心をもち自ら進んで取り組もうとする。

●指導過程

学習活動	教師の指導・支援	◇活用する資料 ☆評価
1. 東日本大震災のときの鹿妻を知る ● 東日本大震災について自分たちが知っていることを話し合う ● 「復興・防災マップづくり」について知る ● 「復興マップ」の意味を知る	- 震災を経験していない子どもたちに、改めて震災について考えさせるきっかけにする。 - これまでの鹿妻小の 4 年生が震災後 2012 年度から継続して「復興・防災マップづくり」を行ってきたことを伝える。	
学校周辺の今の様子を「まち歩き」して調べた復興（震災の後、鹿妻が立ち直っていくこと）の記録→「復興マップ」		
● 「2013 年度 鹿妻復興マップ DVD」を視聴する（10 分）	当時の 4 年生がどのような思いで「まち歩き」をしたのか考えながら視聴させる。	◇ 2013 年度 鹿妻復興マップ DVD
2. 地図（浸水図・地形図）から東日本大震災を知る ● 地形の起伏がわかる地図と浸水図を比べる ● 津波の到達位置を確認する（破線で表示）	- 津波は海から入って低いところに浸水し、山（高いところ）には浸水していないことに気付かせる。 - スライド上の石巻の浸水図のみず色の部分と照らし合わせ、鹿妻学区のほとんどが浸水したことに気付かせる。	◇石巻浸水図 石巻地形図（陰影起伏図） ◇鹿妻地形図（津波到達ライン書込み）

学習活動	教師の指導・支援	◇活用する資料 ☆評価
3. 鹿妻小学校区の「津波の深さ」を知る ●海側と山側ではどちらが深い予想する ●確かめる方法を考える ・地域の中で手がかりを探す ・地域の人に聞く ・過去の鹿妻復興マップを調べる ●鹿妻の実際の「津波の深さ」を2013年度の4年生の「鹿妻復興マップ」のインタビューカードで確認する	・「津波の到達位置」は地図の破線や浸水図で確認できたが、「津波の深さ」はわからないのでどうすれば確かめられるか考えさせる。 ・過去の「復興マップ」から今の自分たちの知りたい情報が手に入ることに気付かせる。 ・山側から海側に向かって浸水深が深くなっていることに気付かせる。	◇鹿妻の地形図（鹿妻復興マッププラットフォーム貼付地図）
4. 東日本大震災の記録を伝える標識を知る ●「津波浸水深」の標識 ↓ 地面から水面までの津波の深さをあらわす ●「津波避難ビル・津波避難タワー」の標識 ↓ 津波避難警報などが発表されたとき、高台などへ避難することが難しい場合、やむをえず、緊急的に避難する建物のこと	・この標識は「津波がどこまで来たか」ではなく「どのくらいの深さか」ということを表していることを伝える。 ・津波避難ビルの近くの津波浸水深の標識に明示してある深さと津波避難ビルの高さとの関係を考えさせる。 ・地域の中に震災の記録を伝える標識があることに気付かせ、実際に見て確かめたい、調べたいという気持ちをもたせる。	◇津波浸水深標識の図 ◇津波避難ビル・津波避難タワーの標識の図
5. 自分たちの「マップづくり」について考える	・今日の学習を振り返り、調べてみたいことや場所を自分たち自身で主体的に決めることで「マップづくり」への意欲づけとさせる。	☆自分たちの「マップづくり」について関心をもち進んで取り組もうとしている

【本時のねらいに対する評価】

東日本大震災を経験していない被災地の子どもたちが、地域のいろいろな資料を活用して東日本大震災を知り、これからの「マップづくり」について関心をもち自ら進んで取り組もうとしている。



図1：学区内の津波浸水深の標識



図2：学区内の津波避難ビルの標識と建物写真